

授業作り	重 点	タブレット端末を効果的に活用し、児童一人ひとりの個別最適な学びを推進する。 教師と児童で授業を創り、問題解決型の学習を進めていく。 個別最適な学びが「孤立した学び」とならないよう、探究的な学習や体験活動を通じ、児童相互の協働的な学びを推進する。
環境作り		①児童が安心して学校に通えるように、安全・安心を第一に考え、学習に集中して取り組める環境を整える。 ②互いに認め合い励まし合える学級づくりを進めるとともに、ICT機器等を効果的に活用し、学習効果を高める。 ③保護者・地域と連携し、教育環境を整え、児童が学びに向き合い、自ら考え行動する教育を推進する。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・線が震えたり、鏡文字を書いたりすることがあるので、整った線で、正しく文字を書く力を身に付ける。</li> <li>・数の合成、分解を考えるにあたって、絵を見るだけで考えようとすることがあるので、図を描いたり、半具体物を操作したりして考える力を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① プリントやドリルで、なぞり書きに繰り返し取り組む。</li> <li>② 教師が字で訂正や補足をした後、なおしに取り組む。</li> <li>③ 半具体物の操作を1時間に1回取り入れる。</li> </ul>
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを詳しく、分かりやすく文章に表す活動を繰り返し指導する必要がある。</li> <li>・ペアでの話し合い活動を積極的に行い、相手に伝わるように話したり、大切なことを落とさずに聞いたりする力を育てる。</li> <li>・基本的な計算はできるが、文章問題になると、問題をきちんと読まず、正しく解答できないため、問題を読む際のポイントを押さえる必要がある。</li> <li>・考え方を説明することへの苦手意識をなくすため、言葉だけでなく図などでも表現する方法を指導する。</li> <li>・基本的な計算力を定着させるため、反復練習をする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 話型や文型の指導をする。</li> <li>② 教科書の視写をする。</li> <li>③ 年間を通してスピーチを行う。</li> <li>④ ペアでの話し合い活動を取り入れる。</li> <li>⑤ 文章問題で分かっていること、問われていることの確認をする。</li> <li>⑥ 問題解決型の学習を取り入れ、自力解決の時間を確保し、自分の考えを説明する機会を多く作る。個人→ペア→全体の学習の流れを作る。</li> <li>⑦ 計算問題の反復練習をする。</li> </ul>
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字を正しく読んだり、書いたりすることや、言葉の特徴や使い方をとらえることはよく身に付いている。</li> <li>・物語を読み取ることにに関して、登場人物の行動や気持ちなど想像を膨らませることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃からすすんで漢字を使おうとする態度を育てる必要がある。</li> <li>・経験したことから話題を決め、自分の気持ちや考えを文章で書き表す力の育成が必要である。</li> <li>・登場人物の行動や気持ちなど、叙述を基に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 漢字ドリル、ドリルノートやデジタルコンテンツの活用する。</li> <li>② 日記や学習感想など、日常的に書く機会を増やす。</li> <li>③ 国語辞典を活用する。</li> <li>④ デジタルコンテンツを活用する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り上がりのあるたし算が全体的に苦手な傾向にある。繰り返し練習問題に取り組む等の指導が必要である。</li> <li>・かけ算九九を定着させるため、引き続き練習が必要である。</li> </ul>	<p>想像を膨らませて物語を読み取る力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算の基礎・基本を正しく理解し、正確に計算できる力を付けさせる。</li> <li>・ものさしの目盛りや水のかさの単位など、数量感覚を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤ 九九や繰り上がりのあるたし算の復習を繰り返し行う。</li> <li>⑥ LやdLマス、ものさしなどの道具を扱う機会を増やす。</li> </ul>
<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生までの漢字の定着率がよい。</li> <li>・「話し手が伝えたいこと」の中心を捉えて、話を聞く力の向上が必要である。</li> <li>・言葉のまとまりを意識して読むことはできているので、「指定された長さで文章を書く」力の向上が必要である。</li> <li>・かけ算九九や筆算の仕方、繰り上がり・繰り下がりのある計算を繰り返し指導する必要がある。</li> <li>・身に付けた知識・技能を活用して、難しい文章問題を論理的に解答できる力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の中心や要点を整理しながら、正確に聞き取る力の育成が必要である。</li> <li>・自分の考えをもち、書く力の育成が必要である。</li> <li>・計算単元では、既習事項の確認を丁寧に行い、九九やたし算ひき算の筆算が正確にできるように指導する必要がある。</li> <li>・算数少人数では、習熟度別のクラス分けを行い、クラスの実態に応じて、復習を交えて基礎・基本の定着を図ったり、文章問題や考え方の説明などの発展的な学習にも取り組んだりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 読書等の環境整備をする。</li> <li>② 自分の考えや意見を文章化する機会を増やす。</li> <li>③ 基礎的な計算練習の日々の取り組みを行う。</li> <li>④ デジタルドリルを活用する。</li> </ul>
<p>5 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿区学力調査の結果、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の正答率が高く、概ね定着している。しかし、指定された長さで文章をまとめることには課題があるため、継続的な指導が必要である。</li> <li>・プリントを用意し、問題を解く時間を確保したことで問題を解こうとする意欲が増し、自力解決する力が向上した。</li> <li>・小数、分数に関しては課題があるため、引き続き繰り返しの練習が必要である。</li> <li>・かけ算九九や筆算の仕方、繰り上がり・繰り下がりのある計算を繰り返し指導する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」の学習では、筆者の主張を捉え、指定の文字数で要旨をまとめることができるよう、キーワードを押さえたり、具体と抽象を意識させたりすることを通して、指導していく。</li> <li>・計算の順序を意識させたり、書かせたりするために計算ドリルを活用し、基礎・基本の力を大切に育てていく。また、デジタルドリルを活用し、計算問題に繰り返し取り組み、速く正確に計算する力を身に付ける。また、習熟度によっては、難解な文章題にも取り組ませていく。その際、分かっていることに実線、求めることに波線を引かせるなど、情報を整理し、論理的に考える力を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 漢字ドリルとデジタルドリルを併用する。</li> <li>② 日記や振り返りを書かせて、文章を書くことに慣れる。</li> <li>③ 国語のノートをマスノートにし、文字数を意識させる。</li> <li>④ 算数習熟度に応じた問題に取り組ませる。</li> <li>⑤ 紙の計算ドリルで基礎・基本の力を定着させる。</li> <li>⑥ デジタルドリルで繰り返し計算問題の練習をする。</li> </ul>
<p>6 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習った漢字を使って文を書くことに課題があるため、漢字を活用する力の向上が必要である。</li> <li>・物語の内容を読み取ったり、自分の考えを文章に表現したりすることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業全体を通して、文章を書く活動では習った漢字を使うように指導する必要がある。また、デジタルドリルや漢字練習ドリルを活用し、知識・技能の定着を図っていく。定期的にミニテストを行う。</li> <li>・文章を読む際に、どのような視点で読んだら</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 漢字練習ドリルを活用する。</li> <li>② ミニテストで知識の確認をする。</li> <li>③ 学習活動ごとに観点を提示する。</li> <li>④ 少人数での共有活動を設定す</li> </ul>

	<p>・算数を苦手としていない児童でも、計算間違いや小数点の位置を間違えるなど、単純なミスが多い。</p> <p>・図形の学習について、苦手意識がある。</p>	<p>いいかを示す。また、読んで感じたことなどの感想を、児童同士で共有を行うことで考えを深めていく。</p> <p>・見直しや検算の重要性を指導し、粘り強く学習に取り組む児童を育てていく。また、デジタルドリルを活用し、繰り返し計算練習に取り組みさせる。</p> <p>・デジタル教科書や必要に応じて具体物を活用し、視覚的に図形を捉えられるようにする。</p>	<p>る。</p> <p>⑤ デジタルドリルを活用する。</p> <p>⑥ 教材を活用し、視覚的に捉えられるように工夫する。</p>
<p>特別支援</p>			